

～ 健口と輝く笑顔のために～ ASSOCIATION

歯科衛生だより

発行人/武井 典子
発行/公益社団法人 日本歯科衛生士会
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-11-19
TEL.03(3209)8020 FAX.03(3209)8023
https://www.jdha.or.jp/

2020 December vol. **60** 会報 合併号

「日本歯科衛生学会 第15回学術大会」学会雑誌にて誌上開催

広げよう! つなげよう! 笑顔を支える輪

— 新たな時代の歯科衛生士の役割 —

主催：日本歯科衛生学会、公益社団法人日本歯科衛生士会 共催：公益社団法人大阪府歯科衛生士会
後援：一般社団法人大阪府歯科医師会、一般社団法人大阪市天王寺区歯科医師会

日本歯科衛生学会 学会長 **吉田 直美**



日本歯科衛生学会学術大会は、歯科衛生に関する学術研究を公表する場ならびに歯科保健医療の最新情報の交換の場として、毎年開催しています。今年は、大阪国際交流センターにおいて9月19日から3日間にわたって開催する予定でした。しかし、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大の影響を受け、初の誌上開催に変更いたしました。

世界中の人々がCOVID-19の出現により、「新たな日常」に適応することを余儀なくされ、学会もまた、その影響から逃れることはできませんでした。本学会は、速いスピードで変化している歯科衛生業務に関する情報の交換の場であり、1年に1回の貴重な研究成果発表の機会です。その公表の場を無くしてしまうことは避けたいというのが、学会スタッフの総意でありました。そのため開催の可能性を5月末まで探索し続けました。しかし、感染拡大や大阪府の状況を確認した上で、参加者の安全が最優先であるとの判断から現地開催を断念しました。関係各位には多大なるご心配とご迷惑をおかけすることになりましたことを心よりお詫び申し上げます。

誌上開催となった学会雑誌Vol.15 No.1は、例年の学会雑誌よりも誌面を充実させました。このため特別講演はもとより、日本口腔衛生学会や日本歯科保存学会とのコラボ企画などの講師の先生方には、限られた時間内で内容拡充のご協力をいただきましたことをこの場をお借りして感謝申し上げます。

新たな日常は、対面が当たり前だった会議をWeb上へと移行させました。どこにいてもWeb環境さえあれば、容易につながれるというアクセスの良さは、より多くの会員が成果発表を行う機会や歯科保健情報に触れやすくなる機会をもたらします。Withコロナの中、歯科衛生士の実践は継続します。卒前卒後の教育研修のさらなる充実、歯科衛生実践のエビデンスとなる歯科衛生研究の展開などさらに強化していかなくてはなりません。日本歯科衛生士会ならびに各都道府県歯科衛生士会と共に日本歯科衛生学会は、歯科衛生士の成長・活躍の機会をこれからも創ってまいりたいと思います。

公益社団法人大阪府歯科衛生士会 会長 **橋場 佳子**
日本歯科衛生学会 第15回学術大会 大会長



日本歯科衛生学会第15回学術大会が新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大により誌上開催となりましたことは関係者の皆様の記憶に新しいことと存じます。

大阪府歯科衛生士会では3年前より会場を検討し、第13回、14回学術大会には役員・関係者が可能な限り参加し、大阪開催をイメージしながら準備を進めてまいりました。準備にあたり学術大会を開催するには、内外問わず各方面の皆様のご理解とご協力が必要であり平素からの連携、関係性の構築が不可欠と改めて感じました。誌上開催へと変更になった際は関係各位の皆様にご迷惑をおかけしたにもかかわらず、ご理解と励ましをいただきましたことは大変ありがたく感謝申し上げます。

大阪府歯科衛生士会では、COVID-19が感染拡大し始めた2月より、会合することが難しい中で都道府県歯科衛生士会の使命のひとつである「歯科衛生士の資質の向上及び倫理の高揚に関する事業」を安全に推進するためには、どうあるべきかと検討を重ねました。持ち前の行動力と団結力で、この感染症によるマイナスの事象を何とかプラスに転じたいという信念のもと、会関係者だけでなく受講者の皆様にもご協力いただき、プロの手を借りずに6月に第1回目のWeb研修を無事に開催することができました。8月のWeb研修では同時に会場開催も行いながら100名の定員を満す皆様が受講してくださいました。第15回学術大会で全国の皆様とお会いできなかった残念な思いは、Web研修を開催することで遠方の皆様、外出や時間に制限のある皆様とも「link(つながる・つなげる)」する機会となっています。

今後の学術大会の開催については、すでに日本歯科衛生士会、日本歯科衛生学会にてさまざまな方法をご検討いただいておりますが、皆様におかれましては「新たな日常」に対応した予防・健康づくり、重症化予防の推進にあたり、国民のため、歯科衛生士の発展のために、留まることなく新たな学びの場を得ていただきますようお願いいたします。

末筆ながら、この感染症による不安が一日も早く解消され、皆様がますますご健勝でご活躍くださることを心よりお祈り申し上げます。

「歯科衛生だよりvol.60」「歯科衛生だより会報vol.60」は、合併号です